

# 3 ことわざ・慣用句

## 1章 言葉をきわめる

### 標準クラス

時間

10分

得点

/100

答え

5ページ

**1** 次の「」に入る動物の名前を、の中から選んで書き入れ、ことわざを完成させなさい。

一つ3(21点)

- (1) 月と
- (2) に小判
- (3) 泣き面に
- (4) の耳に念仏
- (5) とらぬ の皮算用
- (6) も木から落ちる
- (7) も歩けば棒に当たる

馬 犬 ねこ さる ぶた はち きつね たぬき すっぽん

**2** 次の「」に入る言葉を、の中から選んで書き入れ、慣用句を完成させなさい。また、その慣用句の意味をあとから選んで、に記号を書きなさい。

一つ4(40点)

- (1) 油
- (2) 脈
- (3) あわ
- (4) たな
- (5) お茶
- ア ひどくおどろいて、あわてる。
- イ 一度うまくいったので、また同じことを期待する。
- ウ むだ話などをして、仕事をなまける。
- エ いい加減な態度で、その場を適当にごまかす。
- オ うまくいくという望みがある。
- カ 自分に都合の悪いことにはふれないでおく。
- がある
- を売る
- に乗る
- を食う
- をにこす
- をしめる
- を上げる

**3** 次の (1) ~ (5) に入る慣用句を、 の中から選

んで、記号を書きなさい。なお、慣用句は言い切りの形の  
まま示してあります。 一つ3(15点)

サッカーの練習試合の応えんに行った。対戦  
相手は、昨年の県大会でゆう勝した学校だ。わ  
が校は一回戦で敗退。実力の差は明らかで、と  
ても (1) だろうから、 (2) つもりで、一生  
けん命戦うしかないだろうと思っていた。ところが、試合が  
始まると、先制点こそ取られたものの、相手チームはつまら  
ないミスが多い。弱いチームが相手だと (3) ているのか、  
力をぬいて戦っているようだ。そのすきをつけて、わが校が  
同点のゴールを決めた。試合終りようまで残り五分。相手チ  
ームが (4) けて反げきしてくる。逆転は無理でも、何とか引  
き分けのまま持ちこたえてくれと、 (5) けて見守った。



- |   |          |   |         |
|---|----------|---|---------|
| ア | 高をくくる    | イ | 目の色を変える |
| ウ | 胸を借りる    | エ | しのぎをけずる |
| オ | 歯が立たない   | カ | 手に負えない  |
| キ | 手にあせをにぎる |   |         |

- (1)
- (2)
- (3)
- (4)
- (5)

**4** 次の「」に示したことわざについて、正しい

ものには○を、まちがっているものには×を書きなさい。

- (1) 「案ずるより産むが易し」というように、選  
挙に出るかどうかはじっくり考えるべきだよ。  
一つ3(24点)
- (2) 「かわいい子には旅をさせよ」と、両親は積  
極的に家族旅行の機会を作ってくれる。
- (3) どの作品も「どんぐりの背比べ」で、特にす  
ぐれたものがない。
- (4) 「情けは人のためならず」というから、本人  
が自力でがんばるように仕向けよう。
- (5) 「石橋をたたいてわたる」性格なので、なか  
なか新しいことにはちよう戦てきない。
- (6) 「おぼれる者はわらをもつかむ」で、祖母の  
病気を治したために名医をたずねる。
- (7) 「のれんにうでおし」で、山田さんはいくら  
さそっても、テニス部に入ってくれない。
- (8) この間木登りをしてけがをしたばかりだというのに、  
また木登りをするとは、「のど元過ぎれば熱さを  
忘れる」だね。

- 
- 
- 
- 
- 
- 
-

# ハイクラス

時間

10分

得点

/100

答え

5ページ

1 次のことわざの意味が最も近いじゆく語を、あとから選んで、記号を書きなさい。

一つ4(28点)

(1) 花より団子だんご

(2) かつばの川流れ

(3) 月夜にちようちん

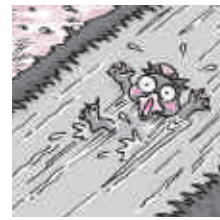
(4) 転ばぬ先のつえ

(5) ひようたんからこま

(6) たなからぼたもち

(7) 雨垂れ石をうがあまだつ

□ □ □ □ □ □ □



オ ア  
根気 幸運  
カ イ  
意外 不要ふよう

キ ウ  
用心 希望きぼう

ク エ  
実利じつり 失敗しっばい

2 次の文に使う言葉として正しいほうを選んで、○をつけなさい。

一つ4(24点)

(1) 海水浴シーズンが終わって、海岸は消えたようになった。  
海水浴かいすよく シーズンが終わり、海岸は  
イ ( ) ア ( )  
光 ( ) 火 ( )  
が

(2) 人をきずつけても平気であるような人間は、友だちの  
イ ( ) ア ( )  
風下 ( ) 風上 ( )  
にも置けない。

(3) あの歌手の、飛ぶ鳥を  
イ ( ) ア ( )  
落とす ( ) 追いぬく ( )  
勢いの人

(4) 竹下さんの意見は  
イ ( ) ア ( )  
得た ( ) いた ( )  
ものだったの  
で、みんなもなつ得した。

(5) 何を聞いても兄は返事もしてくれず、全く取り付く  
イ ( ) ア ( )  
島 ( ) ひま ( )  
もない。

(6) 次の野球部のキャプテンとして、大森君に白羽の矢が  
イ ( ) ア ( )  
当たった ( ) 立った ( )

**3**

次の慣用語の意味にふさわしい状況よを表している文をあとから選んで、記号を書きなさい。 **一つ4(28点)**

(1) 息をのむ

(2) 水に流す

(3) 気が置けない

(4) 火に油を注ぐ

(5) かたの荷が下りる

(6) うでによりをかける

(7) 胸をなで下ろす

- ア 初対面の人が多いので、おとなしくしていた。
- イ 運動会の準備委員会の仕事を無事に終えた。
- ウ 余計なことを言って、さらに父をおこらせた。
- エ 池田さんには、どんなこともかくさずに話せる。
- オ てん望台から見た夜景は、はっとするほど美しかった。
- カ 交通事故があったが、幸いけが人はいなかった。
- キ 決勝戦まで進んだが、一点差で負けてしまった。
- ク 姉のたん生日に、時間をかけて特製ケーキを作った。
- ケ けんかのことはわすれようと、友だちと仲直りした。

**4**

次の各組のことわざの□には漢数字が入ります。最も大きな数が入るものを選んで、□に記号を書きなさい。また、選んだことわざに入る漢数字を( )に書きなさい。 **完答一つ5(20点)**

(1)

- ア 石の上にも□年
- イ □階から目薬
- ウ 人のうわさも□十五日
- エ ももくり三年かき□年



(2)

- ア 二度あることは□度ある
- イ □里の道も一歩から
- ウ 三つ子のたましい□まで
- エ □聞は一見にしかず



(3)

- ア 仏の顔も□度まで
- イ 七転び□起き
- ウ 一寸の虫にも□分のたましい
- エ 一を聞いて□を知る



(4)

- ア □度目の正直
- イ 早起きは□文の徳
- ウ 親の光は□光
- エ □人寄れば文殊の知恵

# トップクラス

時間	15分
得点	/100
答え	6
ページ	ページ

1 次の——線部分を、「耳」を使った慣用句を使って言いかえなさい。  
 《智辯学園中・改》一つ4(20点)

- (1) あの人のよくないうわさを聞いた。
- (2) よく聞くと、かすかな虫の音が聞こえてくる。
- (3) あの人は、いくら注意しても少しも聞かない。
- (4) とつ然の悪い知らせに、聞きちがいだと思った。
- (5) 少数意見の人々の話でもじっくり聞くべきだ。

2 次の(1)～(6)に挙げた言葉の意味とは、ちがう意味で使われる慣用句をそれぞれあとから選んで、記号を書きなさい。  
 《明治大付明治中》一つ4(24点)

- (1) 断念
- (2) 熱中
- (3) 助ける
- (4) 心配
- (5) 直ぐ
- (6) 同じ
- ア さじを投げる  
 ア 寝食をわすれる  
 ア しりをたたく  
 ア 気をもむ  
 ア 間一髪  
 ア 右から左  
 ア 一事が万事  
 ア 一つがそろう
- イ 万事休す  
 イ 心をうばわれる  
 イ 一肌ぬぐ  
 イ 思案にukれる  
 イ 時を移さず  
 イ 一も二もなく  
 イ 一から十まで
- ウ 二の足をふむ  
 ウ 凶に乗る  
 ウ 手を貸す  
 ウ 心配  
 ウ 胸をいためる  
 ウ 判でおしたよう
- エ 見切りをつける  
 エ 心血を注ぐ  
 エ かたを入れる  
 エ 腹をさぐる  
 エ 一から十まで

**3**

次の各組の言葉に、体の一部を表す同じ言葉を結び付けると、慣用句を作ることができます。その体の一部を表す言葉を、漢字一字で書きなさい。

《灘中・改》一つ4(32点)

(1) 焼ける こむ はなれる

(2) すべる 過ぎる おごる

(3) 曲がる 利く 高い

(4) 肥える とどく くもる

(5) 広い つぶれる 売れる

(6) 出る あらう 引張る

(7) 下がる かかえる 冷やす

(8) 切る かしげる つつこむ



□ □ □ □ □ □ □ □

**4**

次の故事成語の意味をあとから選んで、記号を書きなさい。

一つ3(24点)

(1) 完璧

(2) 蛇足

(3) 矛盾

(4) 玉石混淆

(5) 漁夫の利

(6) 螢雪の功

(7) 雲泥の差

(8) 五十歩百歩

□ □ □ □ □ □ □ □

ア 非常に大きながいがあること。

イ 少しの欠点もなく完全なこと。

ウ よいものと悪いものが入りまじっていること。

エ 苦労して学問にはげんで、成功すること。

オ 余計なもの。余計なものを付け足すこと。

カ 周りがすべて敵ばかりで、味方が一人もないこと。

キ 少しのちがいはあるが、たいしたちがいがないこと。

ク ニつの物事がくいちがっていて、つじつまが合わないこと。

ケ 人が争っている間に、ほかの人が利益を横取りすること。

と。

標準クワリス

16～17ページ

1 (1)すつぽん (2)ねこ (3)はち (4)馬 (5)たぬき (6)さる (7)犬

2 (1)を売る・ウ (2)がある・オ (3)を食う・ア

(4)に上げる・カ (5)をにごす・エ

3 (1)オ (2)ウ (3)ア (4)イ (5)キ

4 (1)× (2)× (3)○ (4)× (5)○ (6)× (7)○ (8)○

考え方

1 ことわざには、たとえが使われて、情景を思い浮かべやすいものが数多くあります。「猫に小判」なら「猫が小判を見てもそっぽを向いている姿」というように、ことわざの内容を情景にして覚えておくと、動物の名前を間違えるようなミスを防げます。

2 慣用句はもとの意味を離れ、特別な意味を表すようになった言葉です。例えば、「油を売る」は、昔、油を売る商人が、ゆっくり話し込みながら商売したことから、「無駄話などをして、仕事を怠ける」という意味を表すようになりまし。どんな由来があるのかを知っておくと、意味を理解しやすくなります。なお、イの意味の慣用句は「味を占める」です。

3 (1)・(2)には我が校の立場に合った、(3)・(4)には相手校の立場に合った、そして(5)には我が校を応援する観客の立場に合った慣用句が入ります。ア「高をくくる」立場にいるのは、実力が上である相手校です。ウ「胸を借りる」、オ「歯が立たない」は、実力が下の立場に合う慣用句です。

4 (1)「案ずるより産むが易し」は、「前もって心配するよりも、実際にやってみると予想ほど難しくない」という意味です。(2)「旅をさせよ」の「旅」とは、「世の中に出すこと」です。(4)「人のためならず」は、「人のためではなく、自分のためになる」という意味です。(6)「わらをもつかむ」は「どんなものでもすがる」という意味なので、「名医」には合いません。

ハイクワリス

18～19ページ

1 (1)ク (2)エ (3)イ (4)キ (5)カ (6)ア (7)オ

2 (1)ア (2)ア (3)イ (4)イ (5)ア (6)ア

3 (1)オ (2)ケ (3)エ (4)ウ (5)イ (6)ク (7)カ

4 (1)エ・ハ (2)イ・千 (3)エ・十 (4)ウ・七

考え方

1 (1)「花より団子」は「見て美しいものより、実際に役立つもののほうがよい」と、「実利」を重んじる意味です。(3)「月夜にちようちん」は、明るい月夜にちようちんはいらないことから、「必要がない」ことを表します。(5)「ひょうたんからこま」は「意外なところから、意外な事実が出る」という意味です。(7)「雨垂れ石をうがつ」は、同じ場所に雨垂れが落ち続ければ、長い間には石に穴を開けることができるということから、「根気よく続ければ、最後には成功する」ことを表します。

2 言葉の響きだけで覚えていると間違えてしまいます。由来やもとの言葉の意味をきちんとおさえましょう。(1)燃えていた火が消えたときの様子からできた言葉です。(2)もとは「嫌なにおいの物を風上に置く」と、においが広まって困る」という意味です。(4)的は矢で「射る」ものですね。(5)海でおぼれかかった人が手をかける島もないということに由来します。(6)昔、神へのいけにえを差し出す家には、白羽の矢を立てたことに由来します。

3 (3)「気が置けない」は「気を遣わなくてよい」という意味。「気が許せない」と、反対の意味にとるのは間違いです。(4)油を注ぐと、火の勢いはますます盛んになります。(7)「胸をなで下ろす」は、安心したときの動作を表します。「ひと安心する」状況に合うものを選びます。

4 最も大きな数が入るものを答えることに注意します。残りのことわざに入る漢数字は、次のようになります。(1)ア「三年」、イ「二階」、ウ「七十五日」。(2)ア「三度」、ウ「百まで」、エ「百聞」。(3)ア「三度」、イ「八起き」、ウ「五分」。(4)ア「三度」、イ「三文」、エ「三人」。

1 (1)耳にした(耳に入れた・(小)耳にはきんだ)

(2)耳をすます(耳をそばだてる・聞き耳を立てる)

(3)耳をかきない(聞く耳を持たない)

(4)耳をうたがった (5)耳をかたむける

2 (1)ウ (2)ウ (3)ア (4)エ (5)ア (6)エ

3 (1)手 (2)口 (3)鼻 (4)目 (5)顔 (6)足 (7)頭 (8)首

4 (1)イ (2)オ (3)ク (4)ウ (5)ケ (6)エ (7)ア (8)キ

考え方

1 「聞く」様子の違いに注意します。(1)うわさや情報の場合、「それとなく聞いて知る」様子を表すものが入ります。(2)・(5)どちらも「しっかりと聞く」とする「様子ですが、(2)は「聞き取りにくいものをよく聞く」とする様子」、(5)は「相手の話を熱心に聞く様子」を表すものが入ります。

2 (1)ウ「二の足をふむ」は「ためらう」という意味です。(2)ウ「図に乗る」は「調子に乗る」ということです。(3)ア「しりをたたく」は「やる気を起こすように、せかしたり励ましたりすること」、「助ける」わけではありません。(5)ア「間髪」は、「髪の毛一本しか入らないすき間」という意味から、「ごくわずかな時間」を表します。(6)エ「一から十まで」は「何から何まで全部」という意味です。

3 (3)の「高い」のように、「鼻が高い(我慢する様子)」「目が高い(物事の値打ちを見分ける力が優れている)」と、体の複数の部分と結びつくものがあるので注意しましょう。体の一部を表す言葉を使った慣用語はたくさんあります。それぞれの部分ごとにまとめて覚えておくことが大切です。

4 (8)「五十歩百歩」は、昔、戦場で、五十歩逃げた者が、百歩逃げた者を憶病者だと言って笑った、という故事(昔から言い伝えられてきた事柄やいわれ)からできた言葉です。このように、もとなっていたる故事を知っておくと、故事成語の意味を理解しやすいでしよう。

1 (1)例浅・洋 (2)例救・球 (3)飯 (4)関 (5)例型・堂

2 (1)敗 (2)塩 (3)約 (4)灯 (5)給 (6)兵 (7)希 (8)季 (9)令

3 (1)ア・殺 (2)イ・付 (3)ウ・差 (4)エ・念 (5)ア・功

4 (1)二東三文 (2)自業自得 (3)完全無欠 (4)有名無実

考え方

1 (1)部首が「シ(さんずい)」の漢字が、部首を除く部分の画数順に並んでいます。(2)「キユウ」という音読みをもつ漢字が、総画数順に並んでいます。(3)「板」の「へつくり」と「飲」の「へん」を組み合わせた漢字が入ります。(4)訓読みのしりとりになっています。「はな↓なみ↓みせ↓せき↓ぎし↓しお↓おび」とつながります。「席」「積」などは音読みなので不正解です。(5)曜日の漢字が含まれた漢字が並んでいます。

2 どれか一つで熟語を作ったら、他の漢字でも熟語ができるか確かめていきましょう。(7)「希少」は、「きわめて少ないこと」という意味です。(9)「法令」は、法律と命令のことですが、条例などのきまり一般を指すときにも使われます。

3 (1)「息を殺す」は、息をしないようにじっとしている様子を表します。(2)は「付く」と「着く」の使い分けに注意しましょう。(3)も「差す」と「指す」の使い分けに注意する必要があります。(4)・(5)には、解答となる熟語と同じ音読みの漢字が入ります。(4)「念をおす」は、「重ねて相手に確認する」という意味です。(5)「けがの功名」は、「失敗だと思っていたことが、意外にもよい結果を生む」という意味です。

4 (1)四字熟語に含まれる漢数字が「一・二↓二・三↓三・四↓四・五」とつながります。(2)「自業自得」と、「一歩めと三歩めに同じ漢字が使われた四字熟語が並んでいます。(3)は「完全無欠」と、「似た意味の熟語の組み合わせ、(4)は「有名無実」と、反対の意味の熟語の組み合わせになります。